

# 地理教育研究会 入会のご案内

地教研に入会して地域・日本・世界の再発見をしませんか

東京都千代田区三番町に地理教育研究会（略称・地教研）の地理教育研究所があります。現在、全国で290名ほどの会員が活動しています。

北海道、東京、千葉、埼玉、神奈川、名古屋、広島、島根、鹿児島などには地教研の地域サークルがあり、例会を開いています。



（2021年のうつくしま・ふくしま大会より）

会員の活動や研究成果は、年6回発行される会報「地理教育研究会会報」や機関誌『地理教育』（年刊）で紹介しています。

地理教育研究会というと教員だけの集まりのように思われますが、最近では地理の魅力に惹かれて、大学生・院生や一般の方の参加もあり、市民に開かれた地理教育をめざして、幅広い活動をおこなっています。また、「日本民間教育研究団体連絡会（略称：日本民教連）」の加盟団体であり、「日本学術会議」の協力学術研究団体の一員として、地理学連携機構、地理関連学会連合、人文・経済地理関連学会協議会などに加盟し、学術研究団体としても活発に活動しています。

地教研が発足したのは1957年です。1964年に現在の会の体制を確立し、今日に至っています。本研究会では、「戦前の地理教育には科学性が乏しく国家主義、軍国主義の政策に奉仕する場合」があったとの反省に立ち、「平和と民主主義をおしすすめる教育」をめざすことを、発足の時からの精神としています。

現在の研究主題は「子どもとともに地域に学ぶ地理教育の創造を」です。地域のいとなみにはどんな特色があり、地域と地域はどのようにつながっているのか、を児童生徒とともに探る地理教育をつくりたいと思っています。

地教研は2022年、創立65周年を迎えました。実践に裏打ちされた助言が仲間から得られる、地理教育研究会へ入会しませんか。

（2022年10月作成）

## 毎年夏に研究大会を開催

夏の研究大会は、地域サークルが担い、全国で開催しています。100名前後の参加があり、3日間にわたり活発な議論が繰り広げられています。

大会の初日は、記念講演やシンポジウムを開きます。2日目は、みなさんの問題意識にもとづいた実践報告などを持ち寄って、分散会や分科会を開いています。コロナ禍によって、ここ2年間はオンラインと対面の併用となっています。

最終日は、地域の課題を多角的に追究する、地教研ならではの魅力あふれるフィールドワークもおこないます。

## 各地で楽しくサークル活動

会員は広く全国で活動しています。中でも北海道、東京、埼玉、千葉、神奈川、名古屋、大阪、広島、島根、鹿児島は定期的な研究活動を行っています。授業実践の交流や地理教育と関係する地域の課題をどう考えていくか、皆で話し合っています。

北海道地教研は、例会以外に正月に研究合宿と秋にフィールドワークを、広島は、セミナーや旅行から地域を探る例会を開いています。島根は、一つのテーマにじっくり取り組み、成果を上げています。鹿児島も毎年1年間の活動を冊子にまとめています。

コロナ禍で、活動が休止している地域サークルもありますが、再開を模索しています。

## 会報、機関誌を定期的に発行

会員の意見交換の広場が「地理教育研究会会報」です。年間6号発行し、2022年10月に559号になりました。毎年10月は、夏の研究大会の特集号で、大会の報告や討論の論点を振り返ることができます。人気の現地見学や交流会の様子などを紹介しています。一方、『地理教育』は、年刊です。2022年に第51号を発刊しました。地理教育で話題となっている事柄や喫緊の課題を特集形式で取り上げ、じっくり論じる場です。大学の地理研究室や教育関係者はもちろん、大学生、院生からの評判も高い雑誌です。会員には、これらの紙誌が、送付されます。

『地理教育』の特集テーマ（近刊から）

- 51号 中学校・高校教科書を読む
- 50号 新小学校社会科教科書はどう変わったか
- 49号 ①地球環境問題をどう教えるか  
②地理院地図を使った授業実践
- 48号 高校新学習指導要領を読む
- 47号 ①小学校、中学校の学習指導要領を読む ②異文化理解を意識した地理授業の提案
- 46号 ①魅力ある地誌の授業を考える  
②スポーツから学ぶ地理
- 45号 ①必修化に向けた地理総合のプラン ②地図を活用した授業の提案

## 国内外でのフィールドワーク

地教研ではこれまでに海外現地見学や国内見学を実施しています。会員の中の研究者が選りすぐりの個所を案内する、自前のエクスカージョンです。海外現地見学は、2014年の第14回「フィリピン・ルソン島北部」に活きました。北部山岳地帯の戦跡をたどり、戦後責任について考えました。

(ルソン島北部・ワンワン村・小学校で)



国内現地見学は、これまでに13回実施しています。2012年6月、東日本大震災直後の気仙沼で「森は海の恋人」植林運動に参加しました。宮城県の被災地の惨状に、立ちすくむ思いでした。(写真下)

また、関東地区のサークルが毎年で開く関東ブロック研究集会も、フィールドワークがメインです。



## 多くの書籍を出しています

地理ではどんな事柄をどのような視点で捉えたらよいか、子どもにどのような社会認識を育てたいか、私たちは出版活動を通じて提案しています。

〔現在、書店で入手できる出版物〕

はじめの3冊は、例会のフィールドワークで歩いてきたルートを、地理院地図を使ってたどり、見学のポイントをまとめたものです。



- ◇ 『地理院地図で東京を歩く③』  
(清水書院 2022年)
- ◇ 『地理院地図で東京を歩く②』  
(清水書院 2021年)
- ◇ 『地理院地図で東京を歩く①』  
(清水書院 2020年)
- ◇ 『新版・地理授業で使いたい教材資料』  
(清水書院 2019年)
- ◇ 『授業のための世界地理 第5版』
- ◇ 『授業のための日本地理 第5版』  
(共に古今書院)
- ◇ 『地理を楽しく 子どもを引きつける60のポイント』 (高文研)
- ◇ 『知るほど面白くなる日本地理』  
(日本実業出版社 2016年)

いずれの書籍も、会の活動にもとづいて編まれたものです。ぜひご一読ください。

## 地理教育へのおもい(1) 科学的認識を高める努力を綱領からみる

《地理教育研究会綱領》

(1964年4月29日制定)

第二次世界大戦までのわが国の地理教育には科学性が乏しく国家主義、軍国主義の政策に奉仕する場合もあった。戦後地理教育は社会科教育の中で新生の途を歩むことになったが、戦前の地理学、地理教育に対する批判は不徹底であり、従って、今日の激動する社会にあってその役割を生かすことがきわめて不十分であった。これは何よりも地理教育の目的の不明確さとして指摘できることだ。

われわれはこうした現状を克服し、新しい地理教育の理論と方法を確立しなければならないと考える。新しい地理教育は、平和と民主主義をおしすすめる教育として存在しなければならない。そして、児童、生徒のもつ可能性を十分にひき出し、社会に対する科学的認識を高める努力を教育の他の分野と共にこなすのは勿論、ことに複雑かつ激しく激動する社会の実体の科学的な把握及び国際社会の動きや諸関係の中で日本民族の姿の理解などに力を入れなければならない。このため単に地理教育の実践家のみでなく、地理学研究者はもとより広く地理教育に関心をもつ人々の力を結集し相互批判、交流を重ね理論と実践の統一的研究を科学的教育的真実に依拠して自主的に進め、かつその成果を広げることがめざしている。

## 地理教育へのおもい(2) 地域の現実から学ぶ 地誌学習の重要性

高校での必修化が始まった「地理総合」に関し、私たちは文部科学省および関係諸機関に「提案」を出しています(2016年4月)。提案の要点を記します。

1. 今回の「地理総合」においても、「地理的な見方や考え方」が強調されているが、地理教育だけに特異な「地理的な見方や考え方」があるとは考えていない。また、「地理的」という言葉が曖昧に使われているので、きちんと定義するか、別の表現を使うべきである。
2. 提案には地誌が欠落しているが、是非加えることを要望する。
3. 地理的情報システムを活用できることは、これからの時代に大切なことである。但し、ツールの活用能力と地理の学習目標を混同して項目立てをしている感があるので、再整理する必要がある。
4. 生徒の発達段階を考慮した場合に、高校段階においても、地誌学習の事例を取り入れる必要がある。

### ◇入会の手続き◇

入会希望者は、別紙の「払込取扱票」または、郵便局にある振込用紙に、必要事項(住所、氏名、電話番号、E-mail等)を記入の上、郵便局で年会費を振り込み下さい。[郵便振替口座番号 00120=5=161662 加入者名 地理教育研究会]  
メールで地教研のアドレス [chikyouken@sepia.plala.or.jp](mailto:chikyouken@sepia.plala.or.jp) に直接申し込むこともできます。ともに折返し、事務局より連絡します。

- 年会費は、4,000円です。シルバー、学生は3,000円(自己申告)
- 会計年度は8月から翌年7月。会報(年6回)と機関誌(年刊)を送ります。